

個人貯金県域表彰で優績賞を受賞

のしろ北支店

平成27年度 J Aバンクあきた個人貯金県域表彰が2月24日、J Aあきた白神の本店において行われました。これは、安定的な調達基盤である個人貯金の純増を図るもので、1月末の個人貯金残高について昨年9月末対比の伸び率上位10店舗が表彰されました。

このうち、のしろ北支店（大塚英樹支店長）がウィンターキャンペーンや訪問活動を積極的に取り組み、伸び率3.91%（25,900万円）と全县8位の結果となりました。大塚支店長は「農家訪問や窓口でのセールスなどがうまくいった結果だと思う。今後いい商品をお客様に提供していきたい」と話してくれました。



▲表彰を受けた大塚支店長（右）



▲来店者へ山うどを贈る J A職員

支店窓口で地元野菜のプレゼント

二ツ井支店

二ツ井支店では2月15日、支店を拠点とした協同活動の一環として「地元野菜のプレゼント」を実施し、支店窓口の利用者に「白神山うど」をプレゼントしました。思わぬプレゼントに来店したお客様は、嬉しそうに山うどを受け取っていました。この日は、年金振込日ということもあり、用意した100パックの山うどは昼過ぎにはすべて無くなりました。

山谷支店長は「このイベントで地場産野菜のPRとお客様の満足を得ることができたと思う。今後も窓口をご利用頂いているお客様に、日頃の感謝の気持ちを伝えるため様々なイベントを実施したい」と話してくれました。

「食」と「農」について理解を深める

藤里支店

J Aあきた白神藤里支店では2月1日、支店を拠点とした協同活動の一環として、藤里小学校5年生23名を対象に「食農教室」を開催しました。

J A全農あきた参与の泉牧子さんを講師に招き「食糧自給率・食の安全」について授業を行いました。児童たちの朝ごはんのメニューで食糧自給率を計算し、日本がいかに輸入に頼っているか講義を行いました。泉さんは「ごはんを一口多く食べるだけで食糧自給率はあがります。みなさんは農家にとって大事なサポーターです」と話し、児童たちも「食」と「農」の大切さについて泉さんの講義を熱心に聞いていました。



▲食糧自給率について授業を行う泉牧子さん



▲申告へ向け必要事項を確認する参加者

適正な農業所得の申告へ向けて

営農企画課

農業収支記帳を行うことで、税務署への確定申告を容易に行ってもらおうと、J Aは2月5日に農業所得収支内訳書作成講習会を開催しました。

申告時期に合わせ、毎年開催されている講習会には約80名が参加。J A秋田中央会の小林正弥さんを講師に招き、農業経営収支記帳と減価償却の計算について説明が行われました。参加者は説明を聞きながら、自身の経営状況を把握することができる収支記帳の重要性や申告への不安点を解消するとともに、今後の農業経営についても考えを巡らせていました。